

HOME PARTY



みずのき美術館

04

飛ぶ絵

2017年3月18日(土) - 6月25日(日)

時間 10:00 - 18:00 (入場は17:30まで)

休館 月・火曜日(但し、祝日は開館)

料金 3月18日 - 3月31日: 無料

4月1日以降: 一般400円、高大生200円、中学生以下無料

主催 きょうと障害者文化芸術推進機構(京都府)、みずのき美術館本事

※本事業は京都府オールブリュッ都ギャラリー設置事業の一環で開催しています

みずのき と

大原大次郎 と

菊地敦己



※ 3月18日ー3月31日は無料でご観覧いただけます。

ホームパーティのように、持ち寄りあった作品や、その場にインスパイアされ制作された作品が、多様な方法で展示され、来館者の目と心を楽しませるみずのき美術館の春のアニヴァーサリー企画です。ひとつの空間で、出品者一人ひとりに内在する世界観が交差するように関係し合うことを目指します。

見上げたり、見下げたり、絵に体がちょっと動かされてしまうような展示会を同業で友達のグラフィックデザイナーの大原大次郎くんと考えました。場合によっては、走ったり、飛ばしたりすることになるかもしれません。みずのきの絵は、運動が似合う気がします。そして、春の亀岡は気持ち良さそうです。見に来ていただけたらとても嬉しいです。 — 菊地敦己

※ トーク、ワークショップなどの関連イベントは、ホームページにてお知らせします。
↓ www.mizunoki-museum.org

みずのき

1959年、京都府亀岡市に開設した知的障害者の入所施設。1964年、画家・西垣篤一(1912-2000)の指導者に迎え、入所者を対象とした絵画教室が始まる。ここで制作された作品が、70年代後半より国内の美術公募展への入選を果たし、90年代には日本を代表するアール・ブリュット、アウトサイダー・アートと評され注目を浴びた。教室で制作された約18,000点の絵画作品をコレクションとし、2012年に「みずのき美術館」が開館。美術館の建築設計は乾久美子、VIは菊地敦己が手がけた。

おおほらだいじろう

グラフィックデザイナー。omomma主宰。1978年神奈川県生まれ。タイポグラフィを基軸とし、エディトリアル、CI、宣伝美術、パッケージデザイン等に従事するほか、展覧会やワークショップを通して、言葉や文字の新たな知覚を探るデザインプロジェクトを展開する。近年のプロジェクトには、重力を主題としたモビールのタイポグラフィ(もじゅうりょく)、山岳写真と登山図を再構築したグラフィック連作(稜線)などがある。2014年JAGDA新人賞、東京TDC賞受賞。

きくちあつき

アートディレクター/グラフィックデザイナー。1974年東京生まれ。武蔵野美術大学彫刻学科中退。主な仕事に「青森県立美術館」VI計画、「ミナベルホネン」や「サリー・スコット」のブランド計画、「旬」がまるごと』や『装苑』のエディトリアルデザイン、「亀の子スポンジ」のパッケージデザインなど、とくに美術、ファッション、建築に関わる仕事が多い。また、オルタナティブ・ブックレーベル「BOOK PEAK」を主宰し、アートブックの出版を行う。作品集に『PLAY』(誠文堂新光社)がある。



みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18 [JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅南口下車徒歩8分]

TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889 www.mizunoki-museum.org

※美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。